

「ギラヴァンツ北九州」を応援しました —初めてのサッカー観戦記—

7月22日から24日にかけて東京へ出張した際、7月24日の横浜三ツ沢競技場で行われたJ2リーグ「横浜FC対ギラヴァンツ北九州」の試合を観戦することが出来ました。この観戦記をお伝えします。

今回の出張は羽田空港で福岡県主催による北九州地域のPRを行うものだったが、試合の前日23日にはイベント会場へ「ギラヴァンツ北九州」からのPR隊も駆けつけた。今回は三浦監督と三浦知良選手の兄弟対決の話題性もあり、「是非応援に行きます」とスタッフの方と約束し、仕事の終了後、初めてのサッカー観戦に行くことになった。



ギラヴァンツマスコット「ギラン」との記念撮影

当日、16時過ぎに横浜駅に到着。試合場へのルートなどを調べずに来ていたため、どこに行っても迷っていたが、バス停の方を見渡すといかにもサッカー場へ行くといった感じの人たちが並んでいたため、この後ろに並んでいけば間違いなかならうと思い行列に加わる。間もなくバスが到着し、三ツ沢競技場行きを告げたので料金前払いにて乗車。約10分ほどで競技場に到着し、人の流れに乗り入り口へ。チケット窓口でチケットを買って中へ入ると会場は7割くらいの席が埋まっていた。(その後の主催者の発表では8,828人の入場者とのこと)横浜FCはもともとサポーターによる市民クラブから出来たチームなので市民の関心が高いのだと感じた。バックスタンドのギラヴァンツ側に席をとって周りを眺めると、ギラヴァンツベンチ側には黄色いシャツを着たサポーターが陣取って試合前から「北九州、北九州」の熱い声援を送っていた。しかし、それ以外のスタンドは青い横浜FCのシャツを着たお客さんで一杯、横浜FCサポーターの北九州サポーターを上回る声援に「ああ、ここはアウェーなんだな」との実感を新たに感じた。



ギラヴァンツサポーター



横浜FCサポーター

試合に先立っての先発選手の発表では、「MF三浦知良」の声に観客から大きな拍手・声援が起こり、今日の兄弟対決を盛り上げる雰囲気は漂った。開会式の後、両軍の選手は円陣を組み、気合を入れるとピッチ内に散っていった。

18時試合開始、開始早々いきなり「カズ」のシュート、一瞬ドキリとするが不発。前半始めの展開は横浜FCが押し気味に試合を進めていたが、前半の18分、横浜のカイオ選手のレッドカード一発退場により状況は一変。数的な優位を得たギラヴァンツは押し気味となったが、時々見せる横浜FCのカウンター攻撃にあわてる場面もあり、展開は一進一退で推移。



相手陣内デフェンスポジションの「カズ」選手(11番)

前半38分、ゴール前の混戦から森村選手のシュートで先制点を先取。ギラヴァンツサポーターは大いに盛り上がる。しかし、その直後の前半42分、コーナーキックを西田選手に頭で合わせられて同点に追いつかれ、「1対1」のまま前半を終了。



ピッチに立つ三浦監督

後半に入り「カズ」選手は交代。やはりフル出場は無理か。試合はどちらも攻め手に欠ける展開で推移し、ギラヴァンツの数的な優位を生かせない展開にイライラが募る。三浦監督も時折ピッチ上に出て指示を送り、選手を鼓舞するも、時間が経過するにつれて疲れによるものか、クロスボールやパスの精度が悪くなっているようだ。お互い決定的なチャンスがないまま時間ばかり経過し、後半もすでに45分となった。この試

合は引き分けかと、終了後の混雑を考え、混む前に出口へ行こうと向かっていたところ、観客の歓声が聞こえた。ピッチへ振り向くと、横浜FCゴール前の混戦から池元選手のループシュートがそのままゴールへ。ロスタイム2分に起きた劇的な展開にスタジアムは歓声と失望の声に包まれる。このゴールが決勝点となりギラヴァンツは貴重な勝ち点「3」をゲット。ビジター側の観客席を眺めると「北九州、北九州」の歓喜のコールでサポーターたちは大興奮。この歓声を後にして競技場を離れる。今回の勝利で順位も初めて5位に躍進。今年のギラヴァンツは一味違うと感じさせてくれる試合であった。



勝利の瞬間



歓喜に沸くギラヴァンツサポーター

会場を出てバスで横浜駅に直行。横浜駅からは運よく京急線の羽田空港への直行便に乗ることができ、30分ほどで国内線ターミナルへ到着。東京周辺と羽田空港のアクセスは本当に良いことを実感。そのまま第一ターミナルへ向かいスターフラーヤー窓口で搭乗手続きを行う。出発までまだ十分時間があるので、何かお土産物がないかと空港内を回ったが、ほとんどの店が閉まっていた。

22時、定刻どおり出発。機内で後ろの席にギラヴァンツスタッフの方がいたので声をかけようと思ったが、寝ていたのでそのままにしていると、到着間際に先方が気が付き、いきなり「勝ちましたよ」と嬉しそうに声をかけてきた。私も「見ましたよ、よかったですね」と返す。機内を見回すとサポーターらしき人が数人見受けられる。北九州空港へ到着し、手荷物受取で待っていると流れてくる荷物の中でギラヴァンツの応援グッズらしきものもあり、かなりのサポーターが乗っていたことを伺わせた。スタッフの方に「選手はいつ帰るの」と聞くと、この後の最終便とのこと。早朝・深夜の便を利用すれば日帰りでも関東地域の試合も応援可能な北九州空港の利便性を強く感じた。ギラヴァンツスタッフ・サポーターの嬉しそうな顔を眺めながら北九州空港を後にした。



北九州空港振興協議会 水嶋 和則